

第3回 高沼導水路整備に関する 説明会

【日時】令和7年3月9日（日）14時～
【会場】中央区役所 3階 301会議室
【主催】さいたま市建設局土木部河川課
【委託業者】サンコーコンサルタント株式会社

■ 次第

～本日の説明会の流れ～

1. 開会
2. あいさつ
3. 職員紹介
4. 説明内容
 - (1) 説明会について
 - (2) 護岸健全度調査結果の報告
 - (3) 前回意見の確認と回答
 - (4) 整備計画について
5. 整備計画のまとめ
6. 質疑応答
7. 閉会

4. （1）説明会について

<説明会の目的>

- ・ 高沼導水路の整備計画策定に向けて、地元の皆様や関係する市民団体の皆様と合意形成を図ることを目的としています。
- ・ 本日の説明会では、護岸の健全度調査結果・対策方法、第2回説明会(11/23)におけるご意見を踏まえた検討結果をご報告し、今回の説明会をもって、高沼導水路整備計画を策定したいと考えています。

<説明会対象者>

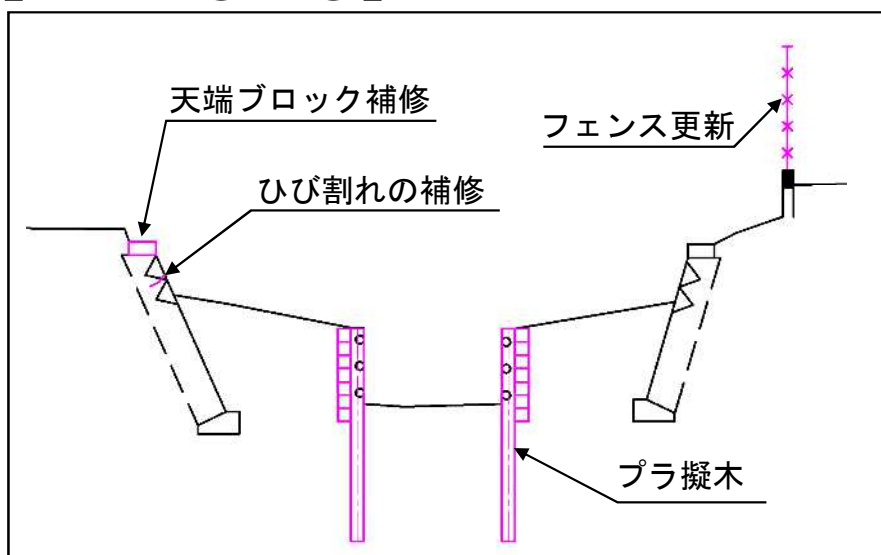
- ・ 高沼導水路の沿川の皆様・自治会長
- ・ 平成16年度ワークショップ参加の皆様
- ・ 市民団体の皆様



第2回説明会の様子

（2）護岸健全度調査結果の報告

【スパン①～⑧】



○部分的な補修を実施する

- 護岸ブロック隙間の充填
- 天端ブロックの補修
- フェンスの交換
- プラ擬木による更新 など

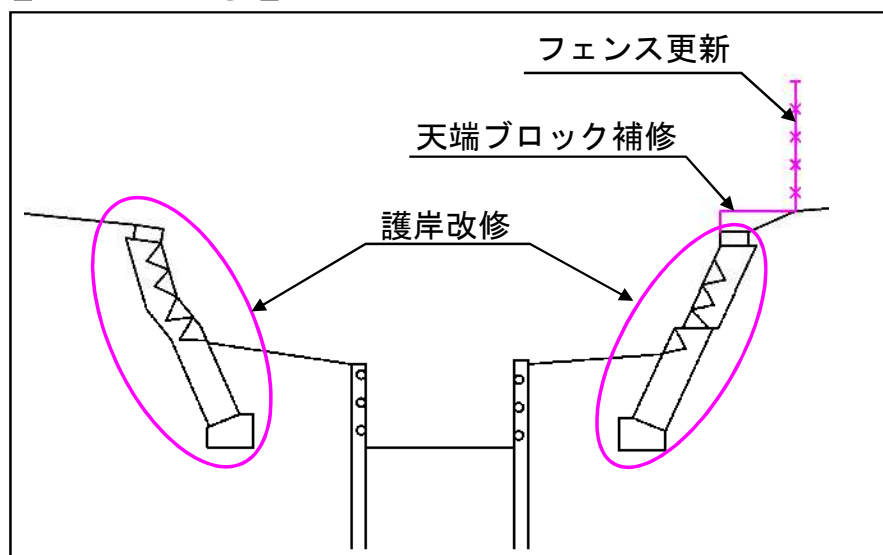
【高水護岸】 概ね護岸の状態は健全であるため、補修を基本とした整備とする。

【低水護岸】 木柵は老朽化が進行しているため、全区間耐久性のある擬木柵に交換する。



（2）護岸健全度調査結果の報告

【スパン⑨】



- スパン⑨で護岸改修を実施する
 - ・ 現況護岸の前側に新規護岸の設置や積替えを検討する
 - ・ 施工性や現場条件を考慮して詳細に検討を進めて決定する

【高水護岸】 劣化の程度が大きいため、重ね付けや積替え等の護岸改修を実施する。

【低水護岸】 高水護岸の護岸改修に併せて整備内容を検討する。



高水護岸の沈下・はらみ出し



高水護岸の沈下・転倒



高水護岸（擁壁）の前倒



高水護岸の欠損

（3）前回意見の確認と回答

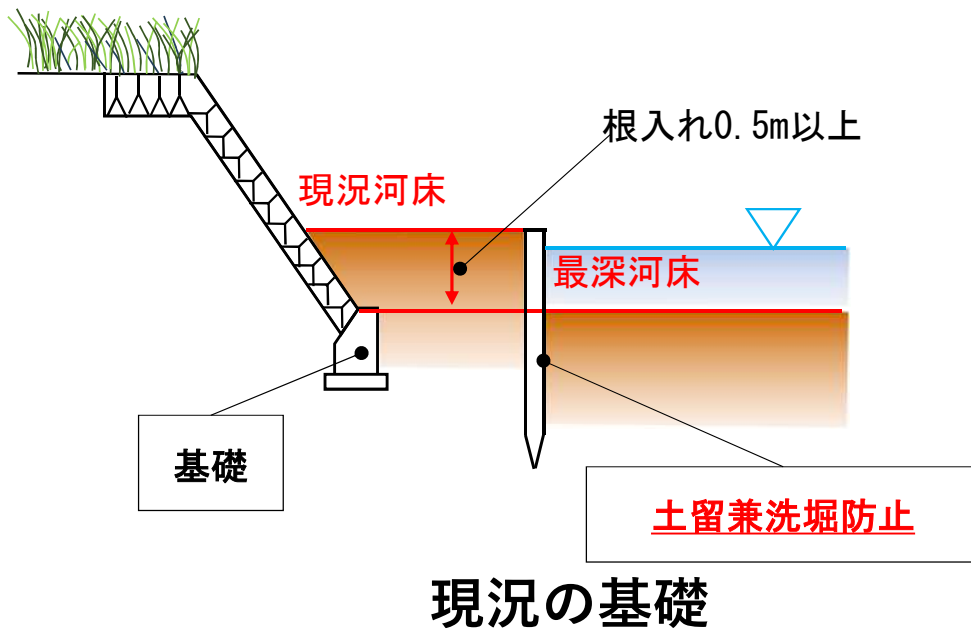
1. 緩勾配整備について

- ・ 緩勾配整備にあたり、高水護岸の基礎が浅いなら補強して緩勾配整備できないか？
- ・ 護岸基礎が深いなら単断面や緩勾配法面も考えられるのではないか？
- ・ 水路中央部が洗堀されるだけであれば高水護岸に影響がなく緩勾配法面の整備ができるのではないか？
- ・ 洗堀は河道の外側で起こるため、内側を緩勾配法面にできるのではないか？
- ・ 生物多様性を考えれば、緩勾配が優れている。

2. フトンカゴについて

- ・ スパン⑧のフトンカゴは、流下能力を低下させるため撤去したほうがいいのではないか？
- ・ 計画降雨の50mm以上の降雨があった場合、溢水するのではないか？

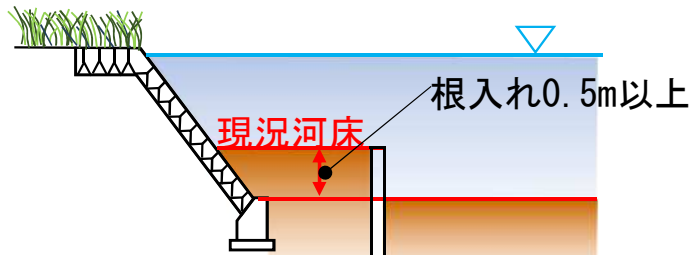
1. 緩勾配整備について



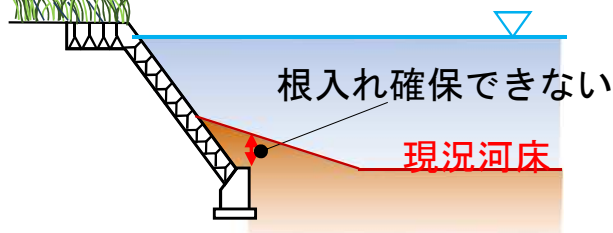
調査状況

- ・ 試掘調査により、現況護岸基礎の根入れは0.5m以上あることを確認しました。
- ・ 現状の導水路の根入れ0.5mあることにより、高水護岸が安定している状態と判断しています。（参考：護岸の力学設計法より）

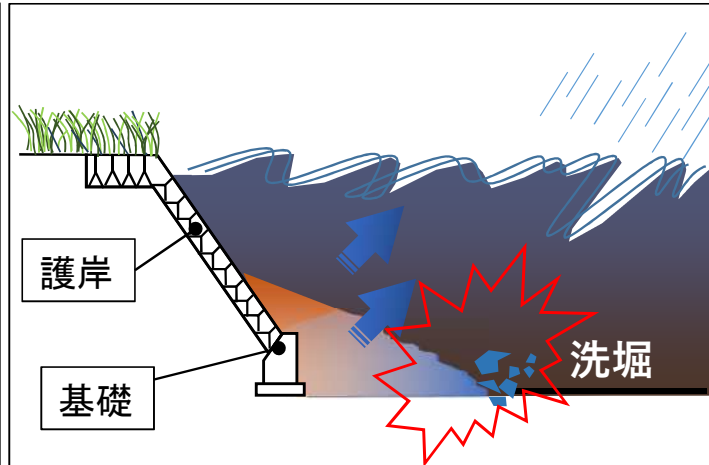
1. 緩勾配整備について



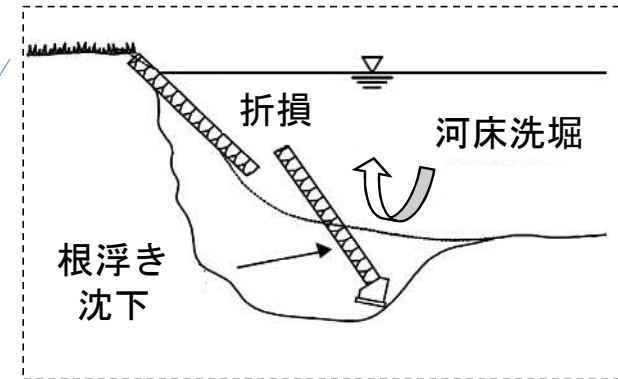
- ① 木柵があることで河床が高水敷となり根入れが確保できている。



低水護岸を撤去し緩勾配法面にすると、根入れが確保できない。



- ② 大雨時には、河道の内側・外側・中央部関係なく護岸天端まで水が流れ、河床洗堀や掃流力による土砂流出が起こると、高水護岸の基礎が浮いたり、護岸が沈下したり折損する恐れがある。

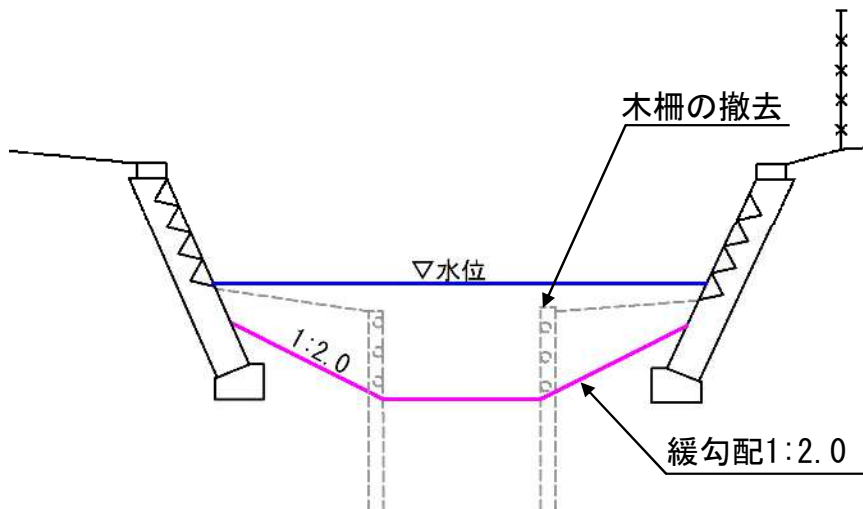


参考：H30美しい山河を守る
災害復旧基本方針P24

⇒ 緩勾配法面の整備は、高水護岸の安定性を担保することができず、近隣家屋への影響や、既存の生態系への影響が懸念されます。現況の断面は、通常時や大雨時の流水に対して、安定した構造であることや、今ある環境を守るため、緩勾配法面の整備は計画に反映しません。

【追加検討事項】

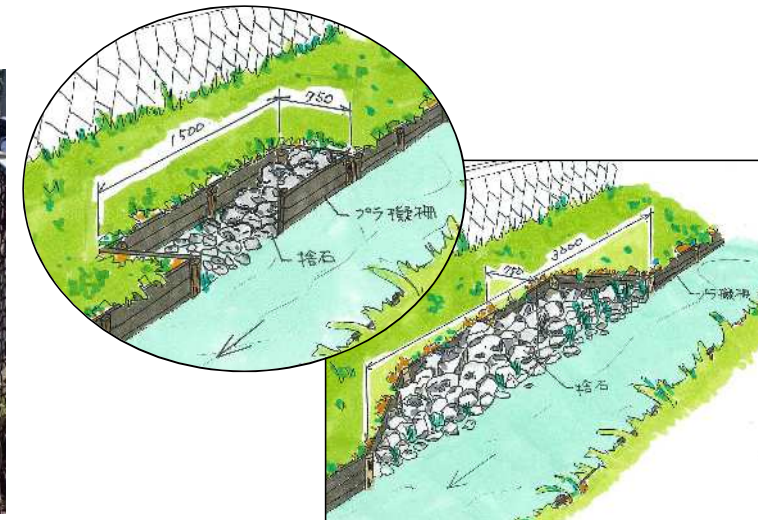
緩勾配法面の検討：スパン⑨は現況護岸の老朽化から護岸改修を実施するため護岸改修と併せて、緩勾配整備が実施可能か検討しました。



①緩勾配法面の検討



①通常時の高水敷



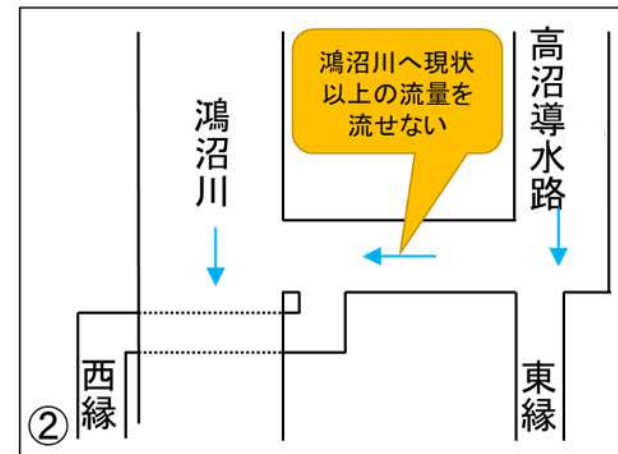
②入り江の検討(イメージ図)

- ① 緩勾配法面の実現性を検討しましたが、スパン⑨は通常時も水位が高く、緩勾配法面全体が水に浸かるため、水域と陸域を含んだ生物多様性につながる水際部の整備となりません。
- ② 緩勾配法面の整備を計画に反映できませんが、生物多様性の観点から部分的に入り江の整備を検討していきます。

2. スパン⑧のフトンカゴは流下能力を阻害しているのではないかな？
計画降雨の50mm以上の降雨があった場合、溢水するのではないかな？



①フトンカゴ

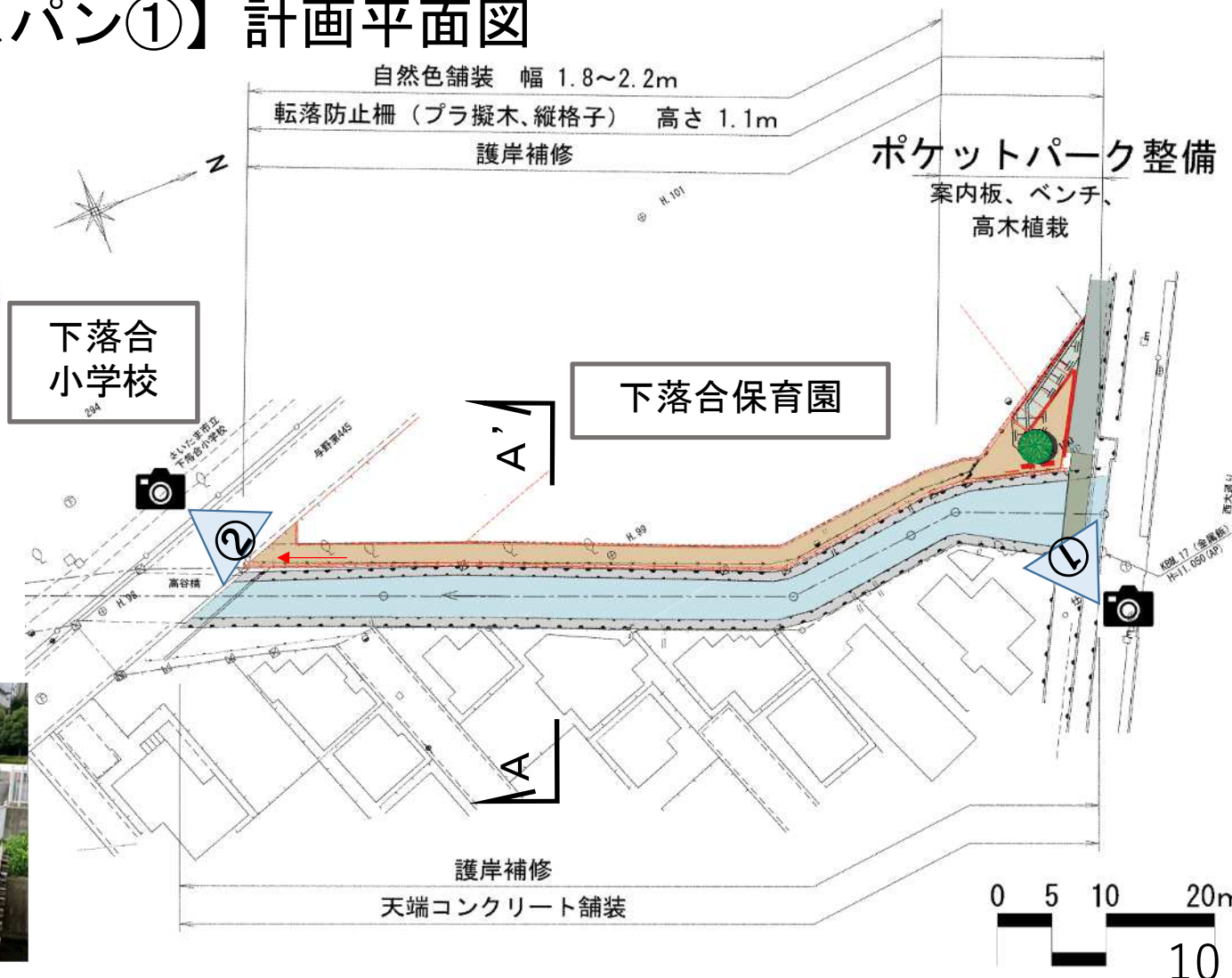
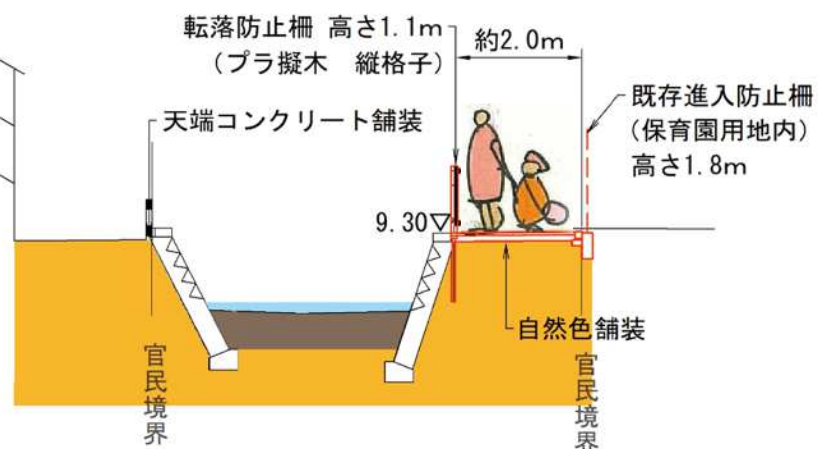


②模式図

- ① 50mm規模の雨水排水には、3m³/sの流下能力が必要ですが、フトンカゴ区間を含むスパン⑧は9.6m³/sの流下能力を有していることから、50mm降雨を十分流下できる能力があります。
- ② 通常時、導水は、東縁・西縁・鴻沼川の3つに分岐しており、大雨時には鴻沼川に放流しています。導水は、下流の鴻沼川の許容放流量が増加しない限り、現況以上の流量を流下させることはできません。
- ⇒ 現況フトンカゴの補修対策で、河川の機能を維持できることから砂利石の補充を実施します。

（4）整備計画について【スパン①】 計画平面図

スパン①
A-A' 断面



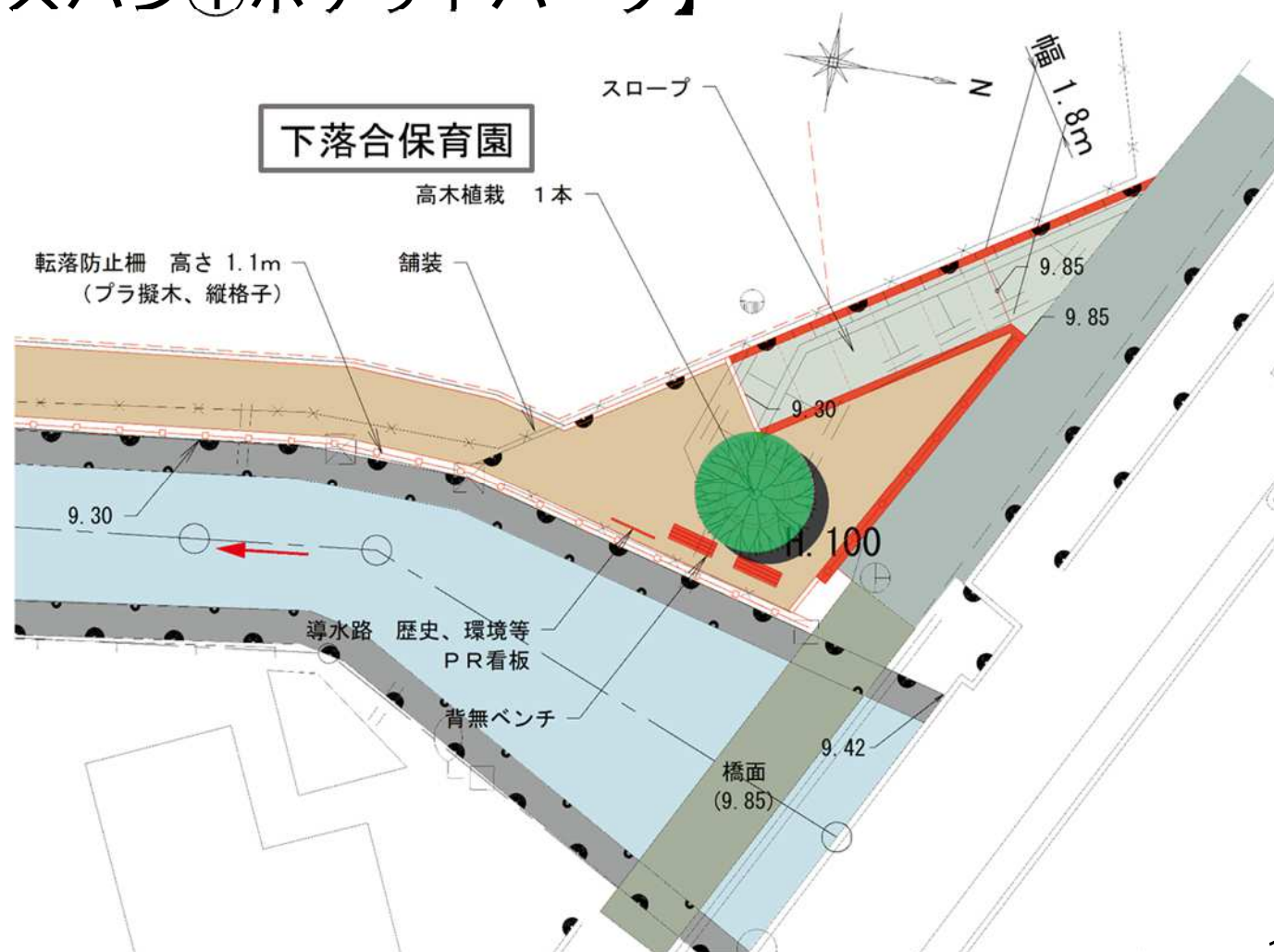
（4）整備計画について【スパン①ポケットパーク】

【舗装】 平坦で歩きやすさを確保し、自然に調和した自然色舗装。

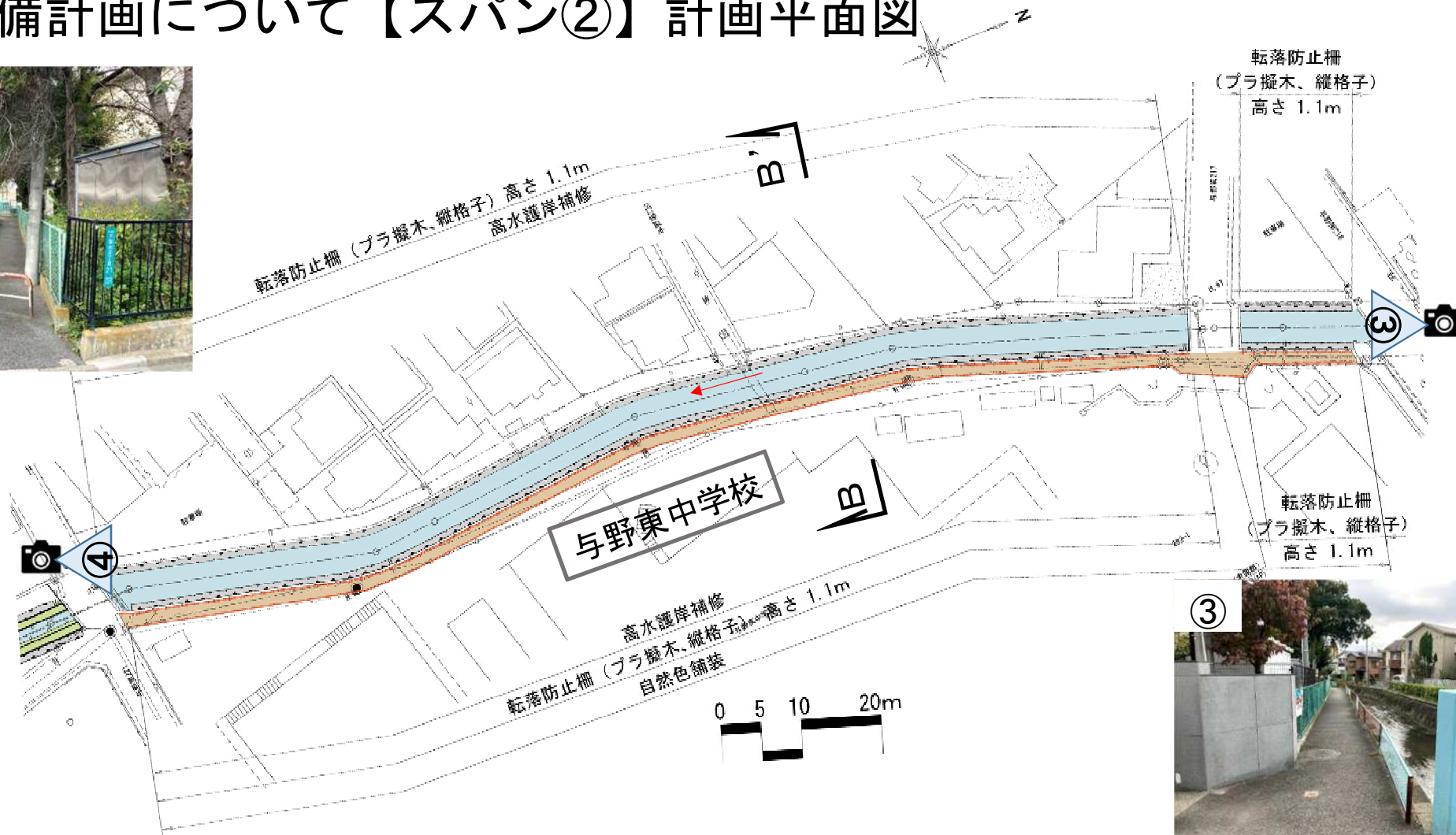
【転落防止柵】 安全確保のため、また、景観になじむプラ擬木柵（高1.1m）を水路側に設置。

【案内看板】 高沼の歴史、自然環境を学べる内容を示し、導水路に親しみを感
てもらう。

【ベンチ】 散策の起終点として、集合、休憩等の利便性を
高める。



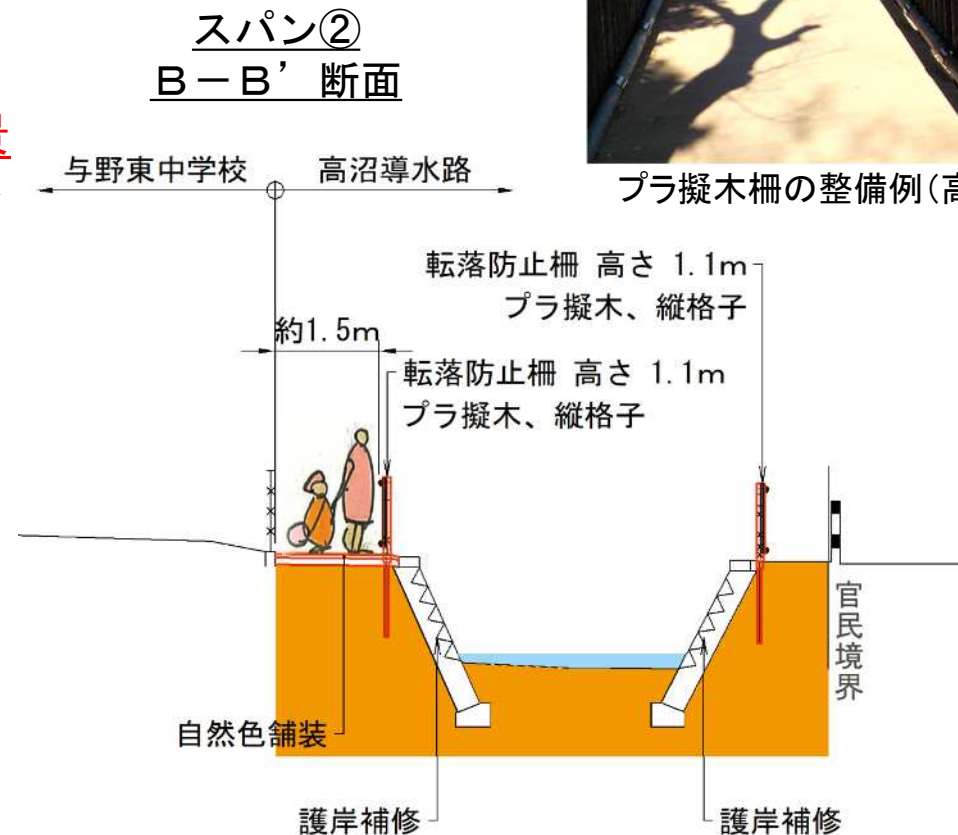
（4）整備計画について【スパン②】計画平面図



（4）整備計画について【スパン②歩道】

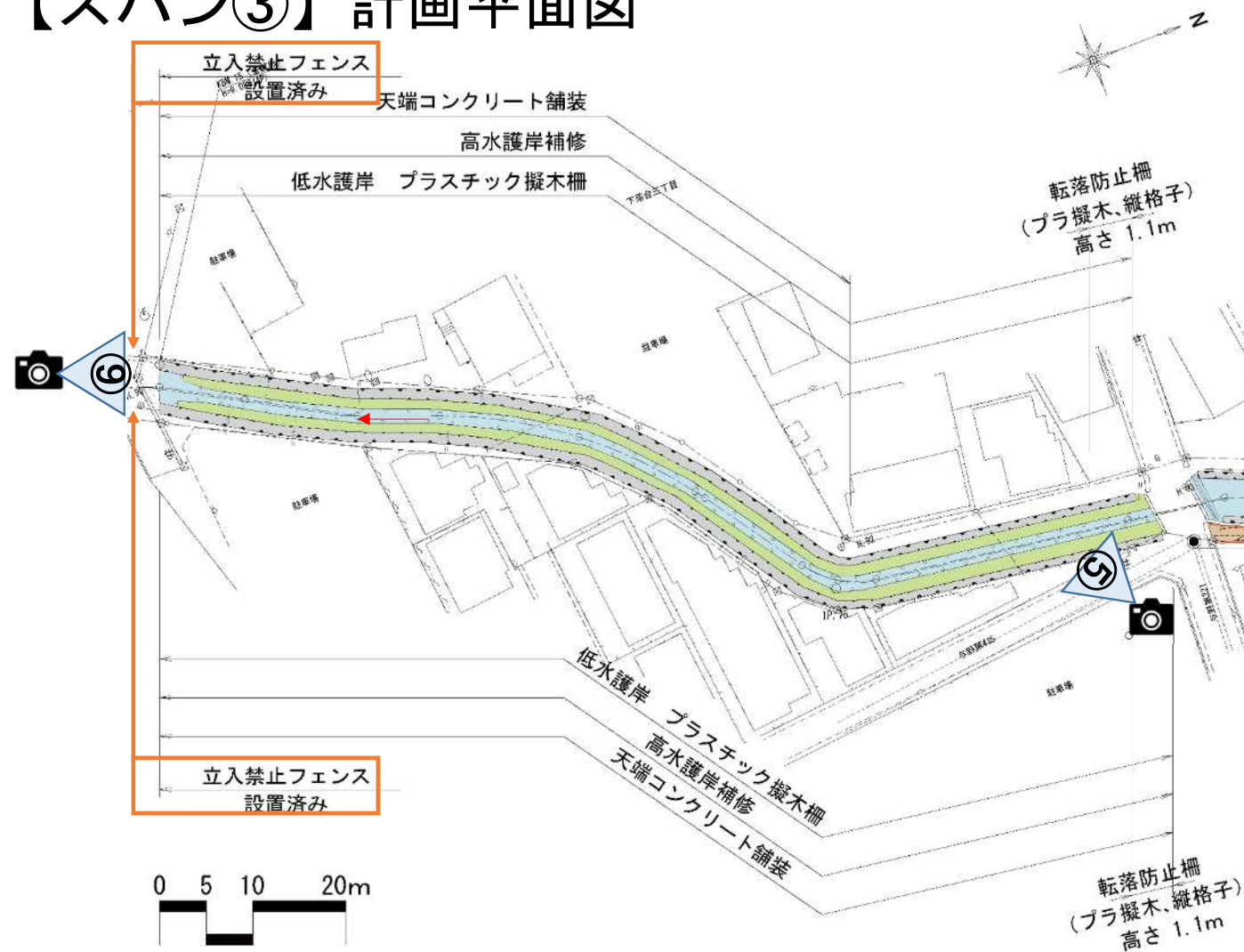
【舗装】 与野東中学校側の歩道を現況の利用形態を損なわずに、自然に調和した自然色舗装に整備する。

【転落防止柵】 安全確保のため、また、景観になじむプラ擬木柵（高さ1.1m）を水路側に整備する。



プラ擬木柵の整備例(高沼用水路)

（4）整備計画について【スパン③】計画平面図

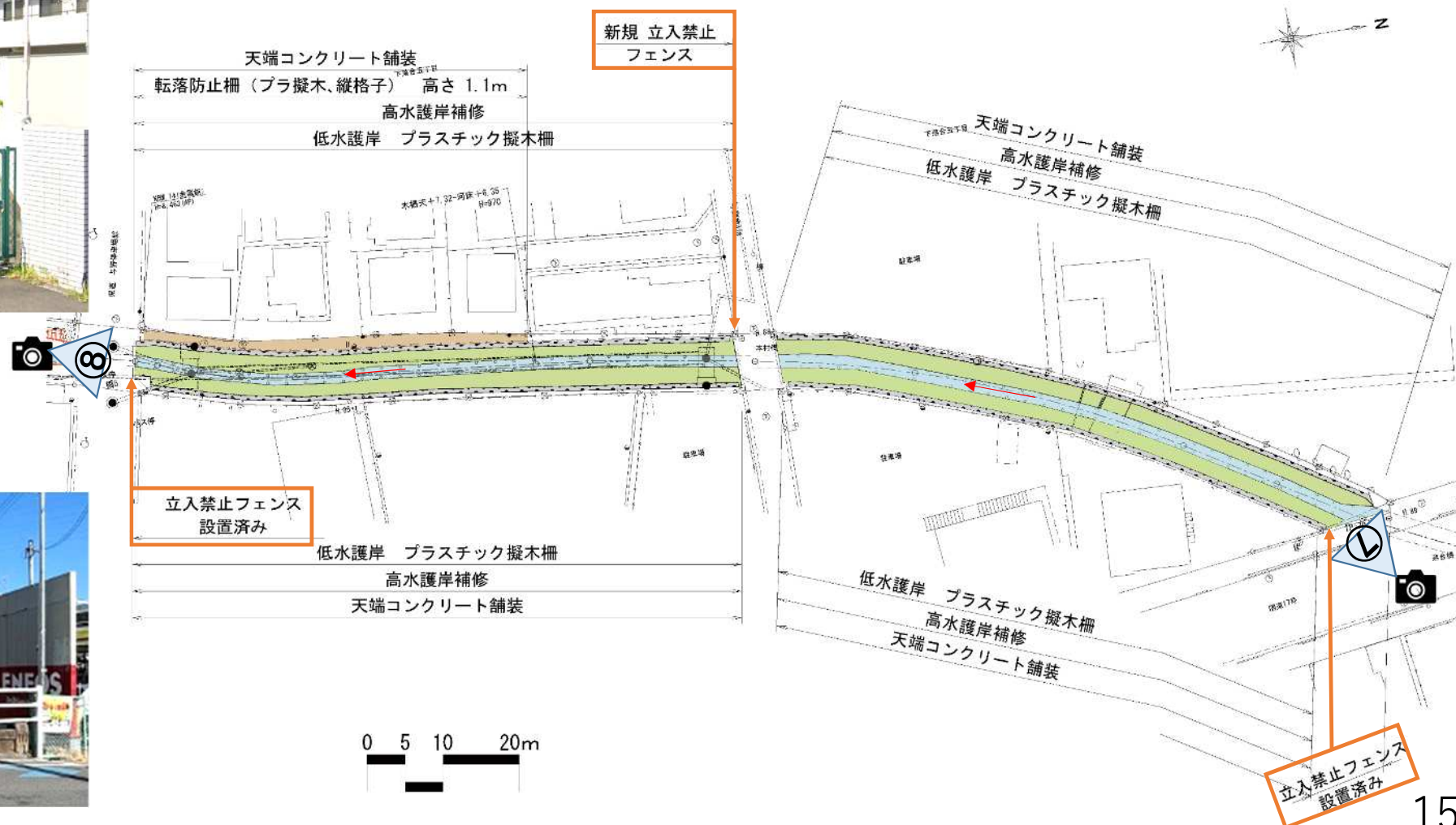


（4）整備計画について【スパン④⑤】計画平面図

⑦



⑧

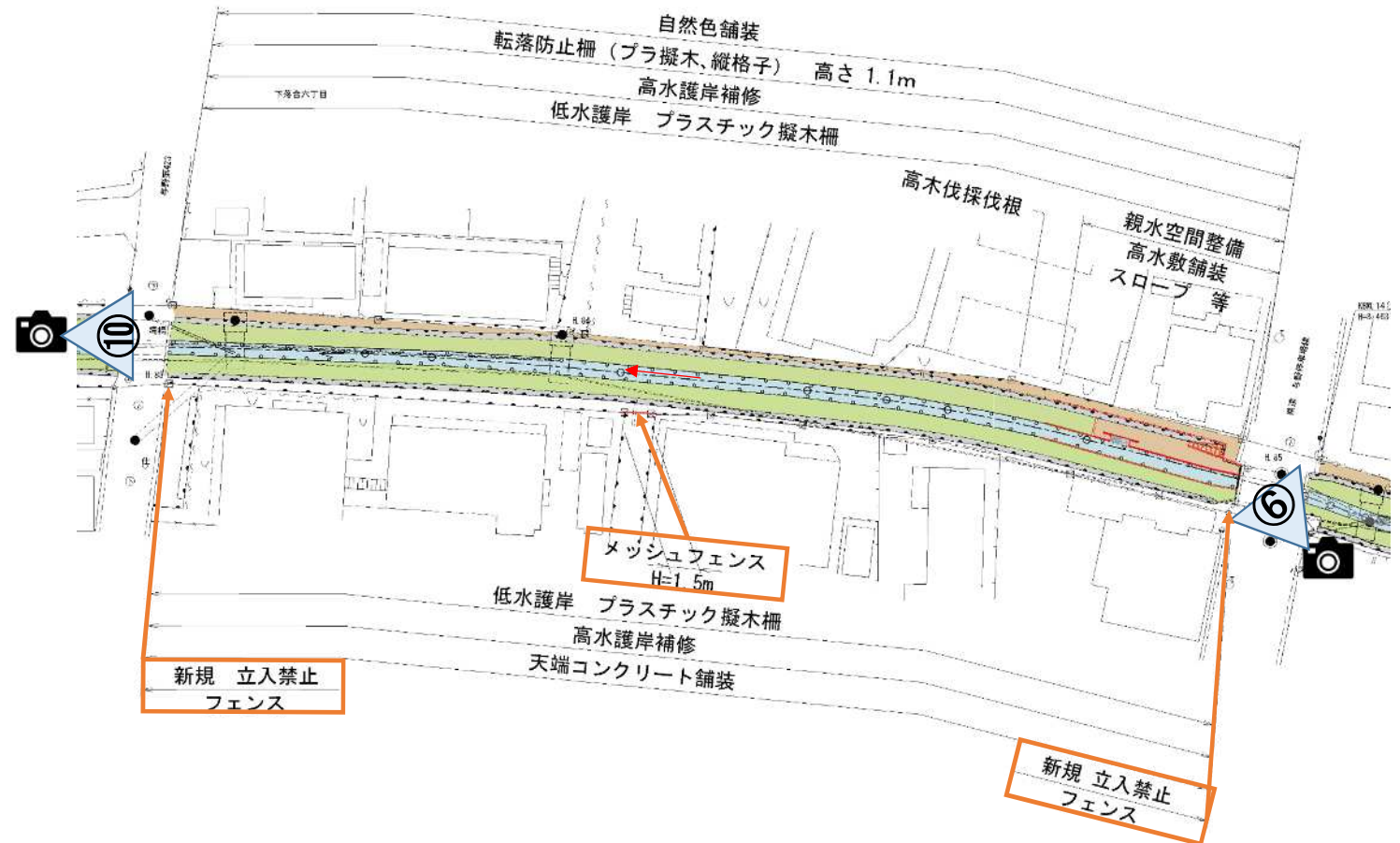


（4）整備計画について【スパン⑥】計画平面図

⑨



⑩



（4）整備計画について【スパン⑥親水スポット】 スパン⑥

高沼導水路区間で唯一水辺に近づくことのできる場所。護岸沿いに階段等を整備し、水辺に近づくことのできる親水空間を設ける。

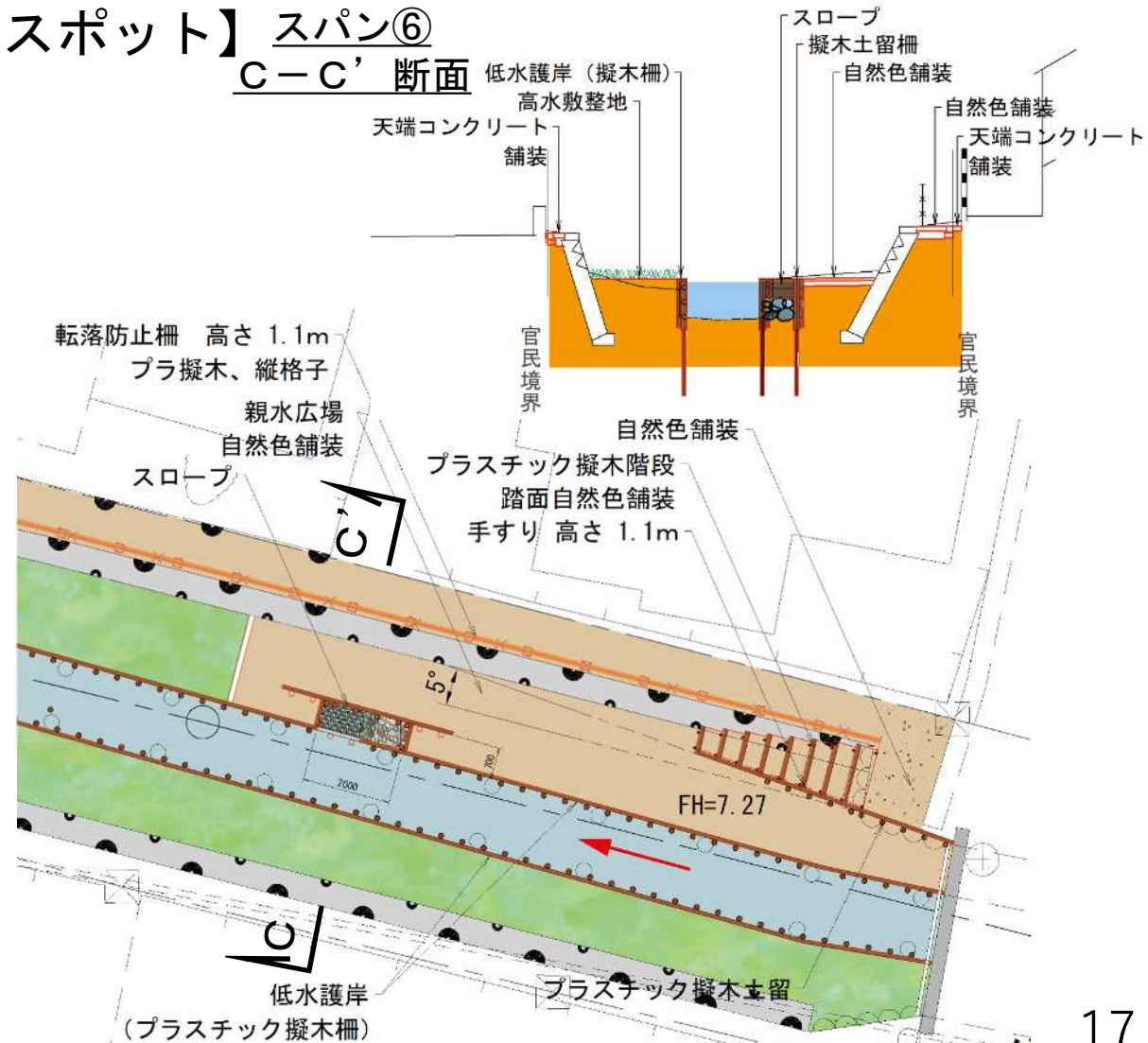
【舗装】 平坦で歩きやすさを確保し、自然に調和した自然色舗装。

【転落防止柵】 安全確保のため、また、景観になじむプラ擬木柵（高さ1.1m）を水路側に整備する。

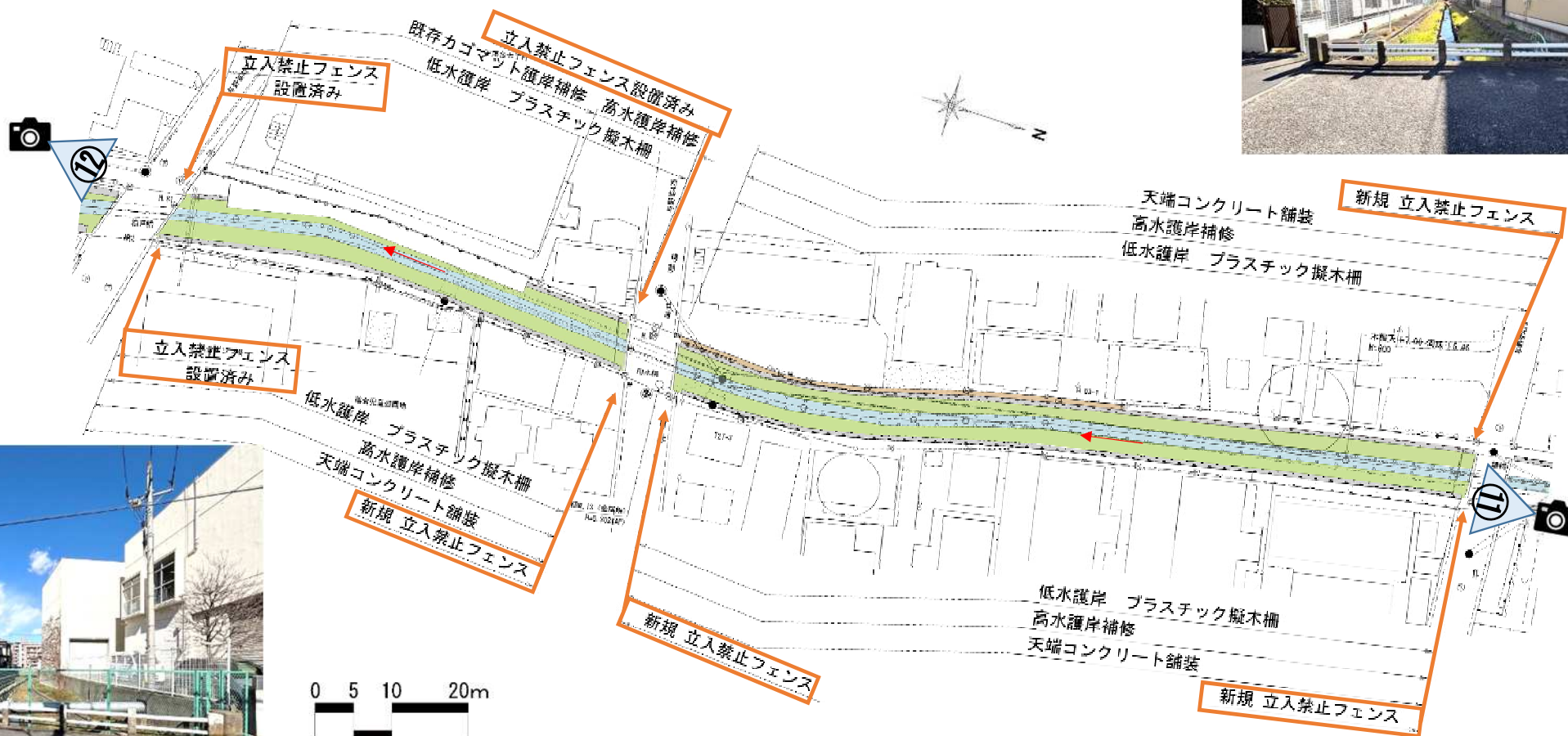
【階段】 橋詰の死水域を活用し、流下能力に影響の無い形態とする。

【手すり】 利用者の安全性を考慮し、階段部分は手すりを設ける。

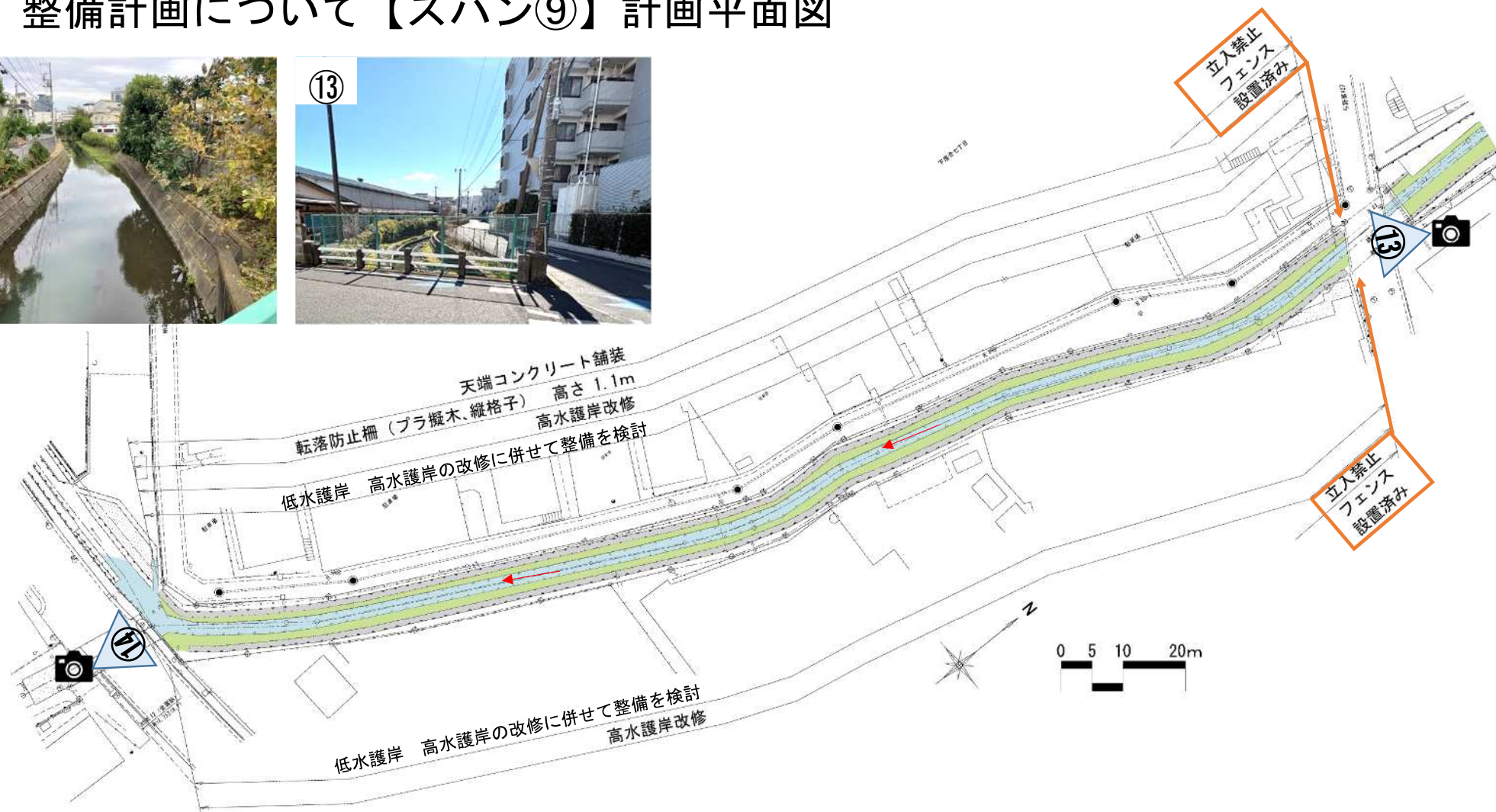
【スロープ】 人が水辺に降りやすくする。



(4) 整備計画について【スパン⑦⑧】計画平面図



（4）整備計画について【スパン⑨】計画平面図



5. 整備計画のまとめ

整備方針

- 治水** 護岸の老朽化対策を行いつつ、現況と同様の1時間あたり50mm規模の雨水排除が可能な構造を確保する
- 自然** 導水路の水と緑からなる貴重な自然環境を可能な限りまもる
- 生活** 導水路の親水性を高めながら、生活空間としてプライバシーも確保する

3つの方針を整備の基本に掲げて計画を策定

護岸整備

- 高水護岸 歴史ある導水路を保存することや整備による近隣家屋への影響、自然環境に配慮し、予防保全型の対策として補修を主として実施する。
 - ・スパン①～⑧ 現況護岸を残した補修対策を実施する。
 - ・スパン⑨ 護岸の老朽化の進行に併せた護岸改修を実施する。
- 低水護岸 高水護岸の安定を保つことや、自然環境をこれからも保存していくため、現況の形態を残した補修対策とする。
 - ・スパン③～⑧(低水護岸設置区間)において、木柵を耐久性のある擬木柵に更新し、大雨時にも護岸の安全性を確保する。

親水整備(水と緑の貴重なオープンスペースを活用し、可能なところで導水路の魅力を高める)

- ポケットパーク 起終点の整備として、地域の方々が導水路に親しみを持てる案内看板やベンチなどを設置して、憩いの場を創出する。
- 親水スポット 水辺に降りれる階段を整備し、導水路の自然環境に触れ合えるスポットを整備する。
- 歩道整備 現況の利用形態を維持しながら、親水性を向上させる自然色舗装や、安全や景観に配慮した転落防止柵を整備して、歩きたくなる空間を創出する。

7. 閉会

～おわりに～

本日は、説明会にご参加いただきありがとうございました。

今後ともご理解ご協力の程、よろしくお願いいたします。

本日は大変ありがとうございました。